



# 学校だより

2月号



～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～



## 不易と流行～便利さとなくしてはならないもの～

副校長 廣田 晃士

新型コロナウイルスの影響もあり、2020年に横浜市全児童にタブレット端末が配付されて、約2年が経ちました。学校教育にこのタブレット端末が導入されて、授業は大きく変わってきているということ、日々実感しています。今ではどの教室に行っても、子どもたちの机の上にはタブレット端末が置かれ、授業で活用しているシーンをよく見かけます。今や鉛筆やノートと同じように、文房具の一つとしての活用が定着しているといえます。

ICT 機器の活用によって、今まではできなかった学習の仕方が生まれています。例えば、一人一人の考えをタブレットで一度に共有してみることができたり、離れているところでもオンラインで授業に参加することができたりします。これによって、子どもはどこでも教室の授業を受けることができるようになっています。我々教師もどのように活用すると授業が効率的かつ効果的になるかを模索しているところです。

ご家庭でもタブレットやスマートフォンを手に入れているお子さんはたくさんいるのではないのでしょうか。友達との会話もメールやラインを使って、またオンラインゲームを通して一緒に遊ぶ、空間を共有しなくても人とコミュニケーションをとることが出来るのは、本当に便利になったと考えられます。しかし、使い方を誤れば、ニュースなどで報道されているように危険なことに巻き込まれる恐れもあります。お子さんが正しい判断、使い方ができるように、ご家庭でも見守っていただくことが必要であると思います。

さて、便利な機器が増えた一方で、やはり忘れてはならないこともあります。それは、空間を共有することです。学校では、休み時間になると校庭に飛び出し、友達とドッジボールをしたり、バスケットボールをしたり、鬼ごっこをしたりと、全力で遊んでいる子どもたちがいます。また、授業でも難しい課題をみんなで相談し、解決したときには自然と笑顔になったり、拍手が起こったりすることもあります。これらはみんな人と空間を共有しています。タブレットを通してでは、鬼ごっこやドッジボールの楽しさを感じることはできないでしょう。また、みんなで話し合っ解決したときの達成感を共有することも難しいと思います。空間を共有することで、人は互いの熱を感じ、心を感じ、集団への所属意識を感じることができます。

学校は小さな社会です。子どもたちが大きくなるころには、また ICT 化が進んでいくことと思います。しかし、今も昔も人とのつながりを感じ、空間を共有していくことで身に付けていく力も、便利さとは別に、社会で生きていく子どもたちにとって、とても大切な力ではないのでしょうか。学校教育も変革の時期にありますが、私たちは便利さと不変的なものの良さをよく考え、子どもたちにとってよりよい教育を提供していきたいと思います。